

中野陽典さん（元「扉」俳句会同人） 遺句

都 福仁

故中野陽典さんが、土生重次さんが創設され、初代主宰者として活躍された俳句会「扉」の俳句会誌に投句掲載されていた作品集の中から、同人大槻一郎氏が秀句を抄出され、井村隆信氏が各号に掲載された作品をご紹介いただきました。

No.352

8月号
2020

扉



扉俳句会

大槻一郎氏は大阪府立大学関係者が中心となって起こしたNPO法人「テクノメイトコープ」傘下の俳句研究会の指導者で、井村隆信氏（世話人）と共に故中野陽典さんも俳句会に参加していました。

大槻一郎氏が抄出された作品は申すまでもなく、井村隆信氏ご紹介の作品集には、それぞれに生前の中野陽典さんの心温まる趣があらわされており、生前のお人柄が感じることが出来ます。

会員の皆さんとともに味わい、今後の作句に向けてお手本とさせていただきます。あることとを考え、ここにご紹介させていただきます。

中野陽典さん 遺句 抄出 大槻一郎

庭石に上目遣ひの赤とんぼ

せせらぎにせりだす芹の青さかな

蕎麦の花縄紋の女の多産とや（信州吟行句）

春霞城を支ふる牛蒡積（彦根城）

学会の発表は明日阿波踊

白菊を屍へ手向け医へ一步

鶯や山の在所の丸ポスト

長汀の松籟に和す春の潮（唐津観光協会 特選）

人日や白衣新調して臨む

買初や古本市の去来抄

蚯蚓鳴く妻の眼鏡を一寸借り

友の墓撫づる摩るや初桜（小川誠二郎さんの墓に詣って）

そぞろ寒少しぬくめし聴診器

焼夷弾焦跡残す首夏の橋（東京日本橋）

ざくろの実冥土の使者のゆるり来よ（最後の句会）

中野陽典さん 遺句作品集（「扉」俳句会 会誌より） 井村隆信

2002年（07月 大阪句会に初参加）

扉10月号 二人づつ等間隔に川涼み
友探すごとく行き来のおにやんま
扉12月号 庭石に上目遣ひの赤とんぼ

2003年

扉01月号 落葉して風のままなる裏おもて
扉03月号 残業のかほを並べて夜鳴蕎麦
扉06月号 せせらぎにせりだす芹の青さかな
扉07月号 花菫風の息継ぎ待ちて撮る
扉09月号 蓮青葉舞殿の獅子迫り上ぐる（鎌倉吟行句）
扉11月号 鍋提げて妻の使ひの新豆腐

2005年

扉11月号 蕎麦の花縄紋の女の多産とや（信州吟行句）
2006年（敲扉集同人に推挙）

扉01月号 友逝けり精霊蜻蛉の舞ふ空へ
扉02月号 黒松の蔓一筋の紅葉かな
扉04月号 大寒や母の輸血の承諾書
扉10月号 信濃路や八丁蜻蛉と五平餅
扉12月号 蓑虫や寝袋持ちの夜の診療

2007年

扉05月号 寒明けの菱の寺紋や帝釈天
扉07月号 春霞城を支ふる牛蒡積（彦根吟行句）

2008年

扉01月号 座敷牢中に一輪菊の花（諏訪吟行句）
扉09月号 黒牛の出番となりて田植唄
扉10月号 湿原に風の道あり糸とんぼ
扉11月号 木道を一尺離れ赤とんぼ

2009年

扉02月号 虫の喰ふ穴に青空柿紅葉
扉06月号 雪解田へ遊行柳の影揺るる（栃木吟行句）
扉09月号 お台場の小沼に柔き蜻蛉生る（横浜吟行句）
扉12月号 学会の発表は明日阿波踊

2010年

扉01月号 白菊を屍へ手向け医へ一步
扉02月号 生涯の医の研修や冬ぬくし
扉03月号 診察の白衣羽織るや寒に入る
扉05月号 春浅しリズム不整の心電図
扉07月号 鶯や山の在所の丸ポスト
扉10月号 若者の心音聴くや朝の虹
扉11月号 打聴診遠慮勝ちなる日焼の子

2011年

扉02月号 不可解と医書を繙く夜長かな
 長汀の松籟に和す春の潮(唐津吟行句)
 扉04月号 人日や白衣新調して臨む
 扉08月号 黒南風や室戸岬の鯨汁
 扉10月号 冷奴術後五年と笑まひけり

2012年

扉01月号 野菊咲く父祖の亡き里訪ねけり
 扉02月号 流行風邪つきつき同じ処方箋
 扉06月号 診了へて暫し微睡む春の昼
 扉07月号 買初や古本市の去来抄(4月号より)
 扉08月号 とんぼ生る近江内湖の山の影
 扉11月号 蚯蚓鳴く妻の眼鏡を一寸借り

2013年

扉01月号 がははんと響く菱喰雁の声(長浜吟行句)
 扉02月号 冬薔薇主治医は孫のごときかな
 老いの身に肺炎てふ芽冬ざるる
 往診や枕屏風に河童の囃
 冬萌や外科の世界へ内視鏡
 扉04月号 夏薊棘一本を抜き外科医
 扉10月号 山間の農夫老いたり稲の花
 扉11月号

2014年

扉02月号 病む人へ手の温もりを冬の月
 扉03月号 元旦に虫垂炎を執刀す
 扉04月号 臨終を告ぐる小声や寒北斗
 正月を不意の病と過ごしけり
 雛飾るここは南国宮古島
 扉05月号 瑠璃色に日を返したり川蜻蛉
 扉09月号 西方に星煌めくや魂祭り(富岡隆夫氏 への追悼句)
 扉11月号

金剛山こんごうの頂照らし盆の月(小川誠二郎氏への追悼句)
 扉12月号 月と行く老にノルマの三千歩
 身に入むやこの世の果へ友二人

2015年

扉06月号 友の墓撫づる摩るや初桜
 扉08月号 ががんぼや心許なき骨密度
 扉09月号 リフトより皆脚下げて夏の山

2016年

扉01月号 白壁の銃眼の列鷹渡る
 扉04月号 寄せ鍋の丹波の地鶏地の野菜
 扉05月号 佃煮の諸子よばれて沖の島
 扉06月号 船宿に残る弾痕椿咲く
 扉08月号 はたた神産声上ぐる男の子

2017年

一扉集同人に推挙

2018年

扉10月号 手術了へまづ冷麦の安堵かな
扉12月号 そぞろ寒少しぬくめし聴診器

2019年

扉03月号 とんばうの睦び横川の龍ヶ池 (比叡山吟行句)
扉03月号 枯野道三途の川を引返へす
扉04月号 松過ぎを病抜けせし日と決めぬ
扉06月号 涅槃西風孔雀の開く目玉紋
扉08月号 焼夷弾焦跡残す首夏の橋 (東京日本橋吟行句)
扉09月号 男とて日傘のお洒落始まりぬ
枇杷熟るる今年も確と生きをりぬ
扉10月号 單車置く男の寮や凌凌霄花
夏瘦せや妻の弁当残す昼

2020年

扉11月号 朝顔に老の絵日記始めたり
扉12月号 シヤツを干す真下に笹の唐辛子
扉01月号 山眠る心臓探る超音波
扉03月号 コルセット身動きならず浮寝鳥
扉04月号 良寛忌今日のノルマと野を歩く
乳がんの相談電話冬終る
扉05月号 白酒は大人のものか児が問ひぬ
子供らに啓蟄の日のふるそそぐ
扉06月号 ひこばえに桜の開花医師老いぬ
扉08月号 医の道の終りに近し冷酒酌む
扉09月号 新茶くむ干支七度目の誕生日
扉10月号 未投稿
扉11月号 病棟の窓に楽しも夕月夜
扉12月号 外に出て歩く嬉しさ秋あかね

2021年

扉07月号 八十路とはまだまだ若しいぬふぐり
扉08月号 滝までは両手に杖の箕面川
扉10月号 枯れて立つ一本松へ盆の月

2022年

扉01月号 ざくろの実冥土の使者のゆるり来よ
扉05月号 春惜しむ余命のことを思ひつつ
五月雨や終日床の上に伏す
扉06月号 (投句最後)大阪句会・心斎橋句会3月
糸蜻蛉この種はほんに珍らしき

2022年9月17日 ご逝去